

NEWS

Niigata University of Health and Welfare
Teaching Career Support Center

LETTER

CONTENTS

1. 巻頭言：直接学校現場の空気に触れよう
2. 新任教員の紹介
3. お知らせ/今後の予定
4. 2024年実施 教員採用試験結果/合格者へのスペシャルインタビュー
5. あとがき



直接学校現場の空気に触れよう

教職支援センター運営委員 高田 大輔 (健康スポーツ学科)



本学では、観察参加実習という「授業観察」を主とする実習授業があります。学生が直接学校現場に触れることができる貴重な機会の一つです。しかし、実習後も継続して学校現場に足を運び、「授業観察」や「学習ボランティア」に参加する学生は決して多くありません。授業力を高めるためには、優れた授業を数多く観ることが不可欠です。特に公開授業は、教師がどのように授業を組み立て、子どもたちと関わっているのかを学ぶ貴重な機会となります。指導技術や教材の工夫、子どもたちの学びへの向き合い方など、多くの学びを得ることができます。

公開授業を観る際には、ただ眺めるのではなく、意識的に学ぶ視点を持つことが重要です。「導入部分で子どもたちをどう引き込んでいくか」「発問の仕方や板書の工夫」「子どもたちの反応をどのように捉え、どのように授業を展開しているか」など、具体的なポイントに注目すると、学びの質が向上します。また、教師の立ち居振る舞いや声のかけ方、クラスの雰囲気づくりなど、細かな点にも目を向けることが大切です。公開授業後の研究協議に参加すれば、授業の意図や工夫について意見交換ができ、新たな気づきを得ることができます。

近年、オンラインでの公開授業や授業動画の視聴機会も増えています。オンライン（オンデマンド）形式には、時間や場所を選ばず学べるといった利点があり、効率的に学習できます（※ニュースレターNo.7参照）。しかし、オンライン授業では、実際の教室の雰囲気や子どもたちの微細な反応を直接感じ取ることが難しいのが現状です。例えば、子どもたちが授業のどの瞬間に集中し、どのような表情で課題に向き合っているか、あるいは教師がどのように場の雰囲気を調整しながら授業を進めているのか、といった点は、実際の現場でなければ十分に把握することができません。

また、授業中の教師の細やかな配慮や瞬時の判断が、子どもたちの学習の深まりにどのように影響を与えているのかを観察することも重要です。たとえば、授業中に困っている子どもをどのように支援しているのか、個別の対応がどのように行われているのかといった点は、現場での観察を通じてこそ学べるものです。さらに、教師同士の授業に対するフィードバックや議論に直接触れることも、今後の授業力向上に大きく役立つでしょう。

授業力を向上させるためには、知識を学ぶだけでなく、実際の授業を観て学ぶことが欠かせません。オンライン（オンデマンド）では得られない「その場の空気感」や「教師の臨機応変な対応」に触れられることが、対面（生）での公開授業の大きな魅力です。学校現場のリアルな学びに触れることで、実践的な授業力を身につけることができるでしょう。

教職を目指す皆さんには、ぜひ積極的に公開授業に足を運び、実際の教育現場を肌で感じてください。多様な授業に触れることで、自身の指導力を高めることができるはずです。

新任教員の紹介

2024年10月より柿原豪先生がご着任されました。新たに教職課程担当の一員となる柿原先生にメッセージをいただきました。

はじめまして。2024年10月に着任した柿原豪(かきはら ごう)です。新潟に住んでからもうすぐ2年が経ちます。まだ訪れたことのない場所が多いので、時間を見つけて県内を探索し、地域についてもっと知りたいと思っています。

教職科目では「教育方法技術」「教育課程論」を担当しています。大学教員となる前は、中学校や高校で社会科を教えていました。その中で、公立・私立、共学・男子校・女子校、また宗教的な背景をもつ学校など、さまざまな環境で勤務した経験があります。また、専任教員だけでなく非常勤講師としての経験もあります。これらの経験を通じて、教員を目指すみなさんにとっての学びや成長を全力でサポートして参ります。教員になる方法は教員採用試験以外にもたくさんあります。これについてもお役に立てるようでしたら、お気軽にお声かけください。どうぞよろしくお願い致します。



柿原 豪先生
(健康スポーツ学科 講師)

お知らせ/今後の予定

▶ 個別相談・個別指導

予約制で随時受け付け中です。
積極的にご利用ください。

▶ 東京アカデミー講師による 教員採用試験対策講座

3年生対象 (1~4年生の受講可)
3月11日(火)、3月14日(金)、3月18日(火)、
3月21日(金)、3月25日(火)

▶ 外部業者学内模擬試験

会場：D204講義室
3月14日(金) 東京アカデミー第3回模試
4月12日(土) 協同出版(予定)

2024年実施 教員採用試験結果

現役合格者10名輩出！卒業生複数名合格！（2025年1月末現在での把握している人数となります）

今年度実施された教員採用試験において、健康スポーツ学科10名（中学校・高等学校保健体育教諭2名、小学校教諭8名）の合格者を輩出いたしました。また、卒業生5名（健康スポーツ学科）からも合格の報告が届いております。教職支援センターでは、卒業生の教採対策指導も行っています！今回は現役合格した3名と過去に合格した既卒生のスペシャルインタビューをどうぞ！

合格者へのスペシャルインタビュー



- ①教員を目指した理由 ②教員採用試験に向けた取り組み
③後輩へのアドバイス



新潟県
栄養教諭
合格（R4年）
R.Kさん
（卒業生）

- ①昔から子どもと関わる仕事に憧れがあり、教員を目指しました。また、生きていく上で欠かすことのできない「食」に携われるということに魅力を感じ、栄養教諭を目指しました。
- ②東京アカデミーの問題集や過去問を繰り返し解いたり、学内講座に参加して面接対策をしたりしました。また、児童との関わり方や学校現場を学ぶため、小学校での学習支援ボランティアを行いました。
- ③自分で勉強したり、学習ボランティアをしたりと教員採用試験合格のために自分でできる最大限の努力はしたつもりです。しかし、私は、決して自分の力だけで合格できたわけではありません。教職支援センターや学科の先生方はみなさんをサポートしてくれます。たくさん頼ってください。

- ①子供が好きということや運動が好きということが一番の理由です。また、中学生という発達の著しい時期に自分自身が指導を行うことによってその先のさまざまな基盤を作っていきたいと考えたため、中学校の教員を目指しました。
- ②まずは、自分の目指す自治体の過去問を繰り返し解きました。また、全国の過去問集の中から自分の自治体の傾向と似ている問題をとにかく解きました。自分の目指す自治体の過去問を何個か残しておき、自分の力試しをしたいときに活用していました。
- ③教員採用試験の勉強は早いうちから少しずつやっておくと後々周りとの差が開いてくるため、おすすめです。また、初めは過去問をとにかく解いて、自分の自治体の傾向を知ることがすごく重要だと思います。



福島県
中学校教諭
（保健体育）
合格
K.Iさん



新潟県
小学校教諭
合格
T.Iさん

- ①継続的に行った学習支援ボランティアを通じて、子どもと触れ合う楽しさを感じ、教育に携わりたいという気持ちが強くなりました。その経験がきっかけで、教員として子どもの成長に寄り添いたいと思うようになりました。
- ②受験自治体の過去問を繰り返し解き、自分の苦手な部分をまとめたノートを作成しました。このノートを活用することで、苦手な部分をいつでも確認できるようにし、効率的な学習を心がけました。
- ③勉強時間を確保することが重要です。課題やアルバイトなどで忙しい中でも、早めに行動し、時間を工夫して確保しましょう。また、友達と一緒に勉強することで気分転換になり、モチベーションも維持できます。

- ①私が教員を目指した理由は、中学2年生時に担任の先生から提案されたことです。当時の担任の先生から「やりたいことが特になければ、人に勉強を教える教師はどうだ？」と言われ、それがきっかけで教員を目指しました。
- ②私は、基礎固めを中心に行い、本番に向けて地道にコツコツと学習に取り組んできました。教職教養が苦手だったので、参考書を用いて繰り返し行いました。一般教養は、過去問を用いて、苦手分野を減らしていきました。
- ③深く自己分析を行うことが、大切であると思います。今の自分に何ができていて、何が足りていないかを確認することが必要です。本番までを逆算をし、地道にコツコツと進めることが大切です。合格目指して頑張ってください。



福島県
小学校教諭
合格
K.Yさん



新潟市
養護教諭
合格（R5年）
A.Sさん
（卒業生）

- ①子どもたちが現在だけでなく大人になったときも健康で過ごすことができるように、健康の大切さを伝えることができる養護教諭という職にとっても魅力を感じたため、養護教諭を目指しました。
- ②問題集を繰り返し解いたり、自分の苦手な部分を書き出した単語帳をつくり、隙間時間に確認を行っていました。また、大学2年生から模試を受験し、様々な問題に触れる機会を作っていました。
- ③教職支援センターや先生方、一緒に頑張っている仲間など、周りには助けてくれる人が沢山いると思います。感謝の気持ちを忘れずに、目標に向かって頑張ってください！応援しています！

あとがき

今回は「直接学校現場の空気に触れよう」というテーマを通じて、実際の（生）授業観察の重要性についてお伝えしました。先日、元メジャーリーガーのイチロー氏が「感性は経験によって磨かれる」と語る姿をテレビで見ました。まさに、授業観察も同じです。実際に現場へ足を運び、自分の目で見て、耳で聞き、肌で感じることで、授業者の工夫や子どもたちの学びに向かう姿勢をより深く理解できると考えます。ICTの発展により学習環境が充実する一方で、現場でしか得られない学びも多くあるはず。ぜひ積極的に、生の授業を参観し、感性を磨きながら自身の指導力を高めてほしいと思います。今後も教職支援センターでは、皆さんの学びを支える情報を発信していきます。次号もぜひご期待ください。

（健康スポーツ学科 高田）



新潟医療福祉大学

教職支援センター ニュースレター

2025年2月28日発行

発行 新潟医療福祉大学 教職支援センター運営委員会
〒950-3198 新潟県新潟市北区島見町1398番地

お問い合わせ

✉ E-mail : kyoshoku@nuhw.ac.jp

🌐 WEB : https://www.nuhw.ac.jp/teaching_career_support/



WEB

新潟医療福祉大学 教職支援センター

検索